

平成28年度  
**ヨコハマ市民  
 まち普請事業  
 一次コンテスト**  
 が開催されました!



ヨコハマ市民まち普請事業の一次コンテストが、7月2日に開催されました。今年度は応募が14件あり、当日は約200人もの方が参加、会場は文字どおり熱気に包まれました。  
 一次コンテストを通過した提案は以下のとおりです。この6提案が平成29年1月29日(日)開催の二次コンテストに向けて、内容をさらに磨き上げて、実現性や地域まちづくりへの発展性を高めていきます。

整備提案名	概要	整備箇所
太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション	自然エネルギーを活用し、農業を通じて住民が交流できる屋外拠点を整備	港北区師岡町
「永谷ふるさと村」の新設	歴史遺産を保存、展示し、街の生い立ちを学ぶことができる屋外拠点を整備	港南区下永谷
地域コミュニティ拠点コワーキングカフェの整備	子育て世代の母親のための託児機能付コワーキングスペースを整備	鶴見区鶴見中央
上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場	商店街と地域住民をつなぐ交流拠点をテナントビルの屋上に整備	保土ヶ谷区上星川
地域のインテリジェンス「ぶらっと 谷矢部」づくり	事務所や写真等の展示ギャラリー機能を持つ交流拠点を公園内に整備	戸塚区矢部町
戸塚宿ふれあい縁広場整備計画	地域住民が交流するための東屋、歴史掲示施設等、屋外拠点を整備	戸塚区戸塚町

今後のヨコハマ市民まち普請事業関連イベントスケジュール

**活動懇談会・企業マッチング会**

二次コンテスト対象提案グループが、二次コンテスト通過に向けて、審査員、まち普請事業に取り組んだ先輩グループと意見交換をします。  
 また、地域貢献意欲の高い企業とのマッチングの機会もあります。  
 事前申込不要、入場無料でどなたでも参加できます。

日時：平成28年9月24日(土) 10:00～16:30(予定)

午前に活動懇談会、午後に企業マッチング会を開催します。

場所：横浜市民活動支援センター(横浜市中区桜木町1-1-56 クリーンセンタービル4F)



各団体の提案内容の詳細は市のウェブサイトでご覧になれます。

地域まちづくり課 **“公認” Facebook**

**「ヨコハマ市民まち普請ひろば」**

Facebookに登録してなくても誰でも見られます。

まち普請ひろば  クリック

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね!」をよろしくお願いします。

(Facebookページの運営は協働事務局のNPO法人アクションポート横浜が担当しています)

ヨコハマ市民まち普請事業とは…

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの繋がりを増やすことを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のウェブサイトでご覧いただけます。

まち普請  クリック

事前相談も随時受付中!

**まちづくりについての情報を募集しています。**

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

《情報提供のあて先》

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、 クリック

平成28年8月発行

**ヨコハマ人・まち**  
 -まちへ人がまちをつくる-

vol. **51**

発行：横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641 Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

取材・編集：NPO法人 アクションポート横浜

TEL/FAX 045-662-4395 Email: info@actionport-yokohama.org

1P～3P コミュニティカフェが育てる地域の可能性  
 ～ふらっと立ち寄る場所から、活躍できる場所へ～

4P 平成28年度ヨコハマ市民まち普請事業  
 一次コンテストが開催されました!

**コミュニティカフェ 地域の可能性  
 が育てる**

～ふらっと立ち寄る場所から、活躍できる場所へ～

誰もが気軽に立ち寄れる居場所として、地域でのコミュニティカフェの存在感が年々増してきています。近年では、地域からの声や地域住民の特技を生かしてさらに活動の幅を広げているコミュニティカフェがあります。

今回、当初よりも活動範囲を広げ、新たなプロジェクトに取り組む二つのコミュニティカフェ取材しました。



ある日のさくら茶屋  
 いつも賑わっています



ハートフルポートの  
 二周年記念パーティー



## ◆さくら茶屋にししば（金沢区西柴）

### 商店街の空き店舗を地域の交流拠点に

平成22年5月に金沢区西柴三丁目の商店街に誕生したのが、「さくら茶屋にししば」です。地域の人にアンケート調査を実施し、「自由に立ち寄れる居場所がほしい」というニーズを把握したところから活動を始めました。そして、地域の高齢化とともに元気がなくなりつつあった商店街の空き店舗に、「地域の人たちの居場所をつくらう！」と、横浜市の助成事業「ヨコハマ市民まち普請事業（※1）」を活用して整備しました。

オープンから6年、ボランティアスタッフが作る日替わりランチが大好評。中でも地元柴漁港から仕入れるアナゴを使った「アナゴ丼」（火曜日限定）は絶品です。

### 利用客の声から生まれたプロジェクトを実現

しかし、さくら茶屋には「アナゴ丼」のランチをのぐ目玉プロジェクトがいくつもあります。最初は、趣味の教室や、地域住民の趣味・特技を披露してもらいながら語らう交流会「西柴夜話」など、主に高齢者を対象にした事業をはじめました。そして、スタッフとカフェに集う人が会話をしていくうちに、地域には高齢者に限らず、様々なニーズを持った人がいることに気づき、より多世代に向けたプロジェクトを徐々に増やしていきました。例えば、共働きの子育て世代をサポートするため、登校前の子供たちに勉強を教える「朝塾」、子育てに悩む母親が集まる「発達凹凸児親の会」、介護でなかなか家から出られない人に息抜きの場を提供する「介護者の集い」、認知症カフェ「オレンジデー」など、幅広い対象に活動を広げ、地域にとって欠かせない居場所になりました。

### 新プロジェクト「大家族食堂」

さらに今年から「大家族食堂」という新たなプロジェ

### テスト営業には多数の住民が参加しました



クトがはじまります。当初は社会的な問題である子どもの孤食を解消するための食事の場が必要だと考えました。「この地域は貧困が課題ではないけれど、働くお母さんは増えているから、一人で食事をする子供たちは多い。そして、高齢者の一人世帯も多い。色々な人が食卓を囲み、子どもが一人で来ても食事ができる場所をつくりたい」（理事長 岡本さん）と、地域のニーズに合わせ、子どもから大人まで、多世代の人が一緒に食卓を囲む「大家族食堂」プロジェクトが立ち上がりました。

今回も事前に地域住民に向けてアンケート調査を実施したところ、利用者としての関心が非常に高いことに加え、ボランティアとして運営に参加を希望する人も多いことがわかりました。

こうして、次々に新規プロジェクトに取り組むことで、事業を利用する人、運営するボランティアスタッフなど様々な人が「さくら茶屋にししば」に関わり、地域コミュニティを広げています。

「私たちは地域住民の居場所をつくり、多世代をつなぎ、安心と安全と優しさあふれるまちをめざします」と6年前に「ヨコハマ市民まち普請事業」の公開コンテストで宣言したとおり、「さくら茶屋にししば」は多世代をつなぐ、まちの居場所になっています。

## ◆ハートフルポート（旭区南希望が丘）

### 自宅を改装して地域に開放する「住み開き」とは？

横浜市旭区希望ヶ丘駅から徒歩で数分、閑静な住宅地の中に、「ハートフルポート」はあります。多くのコミュニティカフェは空き店舗や空き家を活用していますが、ハートフルポートは自宅の一部を改装して、地域の皆様が気軽に利用できるカフェとして地域住民を受け入れる「住み開き」をしています。

代表の五味さんは、二世帯住宅で一緒に暮らしていたお母様が亡くなり、空いたスペースをどうしようかと考えました。長年住み慣れた、愛着のある場所なので、地域のために何か活用したいと思い、用事があるときにわざわざ行く公共施設ではなく、ふらっと立ち寄れて、おいしいご飯が食べられる、そして、定期的に面白いイベントができるような場所として、自費改装を実施。運営スタッフを雇用し、「ハートフルポート」というカフェをオープンしました。

オープンして2年、ハートフルポートは子連れのママやご年配の方々にいつもにぎわっています。地元産の食材、調理方法にもこだわり、料理が得意なスタッフが考案するランチメニューは、とても美味しいと評判です。



### 2周年記念イベントでクラシックギターのコンサートを開催

### 集うだけでなく、住民の夢を後押しするカフェに

また、毎月、ジャズ、ボサノバなどのコンサート、子育て中の母親を対象にしたベビーマッサージ教室、絵本が好きな人たちが語り合う絵本カフェなど多くのイベントが開催されています。これらの多くが利用者からの持ち込み企画で、近所の人から他区の人、若い人から80歳を超えた人まで多様な人が、特技を生かしてやりたいことを実現します。

ワンデーシェフを何回かやって自信をつけ、横浜市内にレストランを開業する人や、海外のコンクールに出場する人が力試しにコンサートを開催するなど、この場所をステップに住民の才能が開くこともあります。また、テーマを決めて飲みながらおしゃべりする、その名も「ざっくばらんにしゃべらん会」、87歳の男性が呼びかけた一日限りの混成コーラスコンサートなど、地域の人々のアイデアで実現した企画もたくさん。まさに「夢をかなえるカフェ」としての役割も担っています。

「『家を地域に開く』、というのはとても良いことだと思います。人の孤立は怖いことですが、地域にとっての家



### オープン当初からのスタッフとイベントのゲスト

庭のようなあたたかい場所があれば、自然と人が来てくれるんです。いろんな地域にこのような場所があったらいいなと思います」（代表 五味さん）。

多くの人の夢をかなえるカフェは、今では地域になくてはならない場所になっています。

二つのコミュニティカフェは、どちらも利用者の声から生まれた企画が活動を広げるきっかけになっています。地域のニーズをうまくキャッチし、そのニーズに応えるカフェ、プロジェクトをつくりだすことが活動の骨子になっています。

さらに、スタッフから利用者へ声をかけ、意見が出やすい雰囲気をつくることも活動を広げるポイントです。特技を持つ利用者が主役となり、コミュニティカフェがその活動を支えるために、いろいろな企画もできるだけ参加型にしています。

こうすると、地域の人々の応援も得やすく、「自分の場所」という認識を持って自発的に関わる人が増えていきます。人を巻き込み、人の思いを実現することで、コミュニティカフェが地域の可能性を拓けています。

※1 ヨコハマ市民まち普請事業とは・・・  
ヨコハマ市民まち普請事業では、市民の皆さんが主体となって行う身近なまちの整備提案を募集し、2回の公開コンテストを通過した提案グループに、翌年度、上限500万円の整備助成金を交付します。

### 大家族食堂の開始に向けたテスト営業

